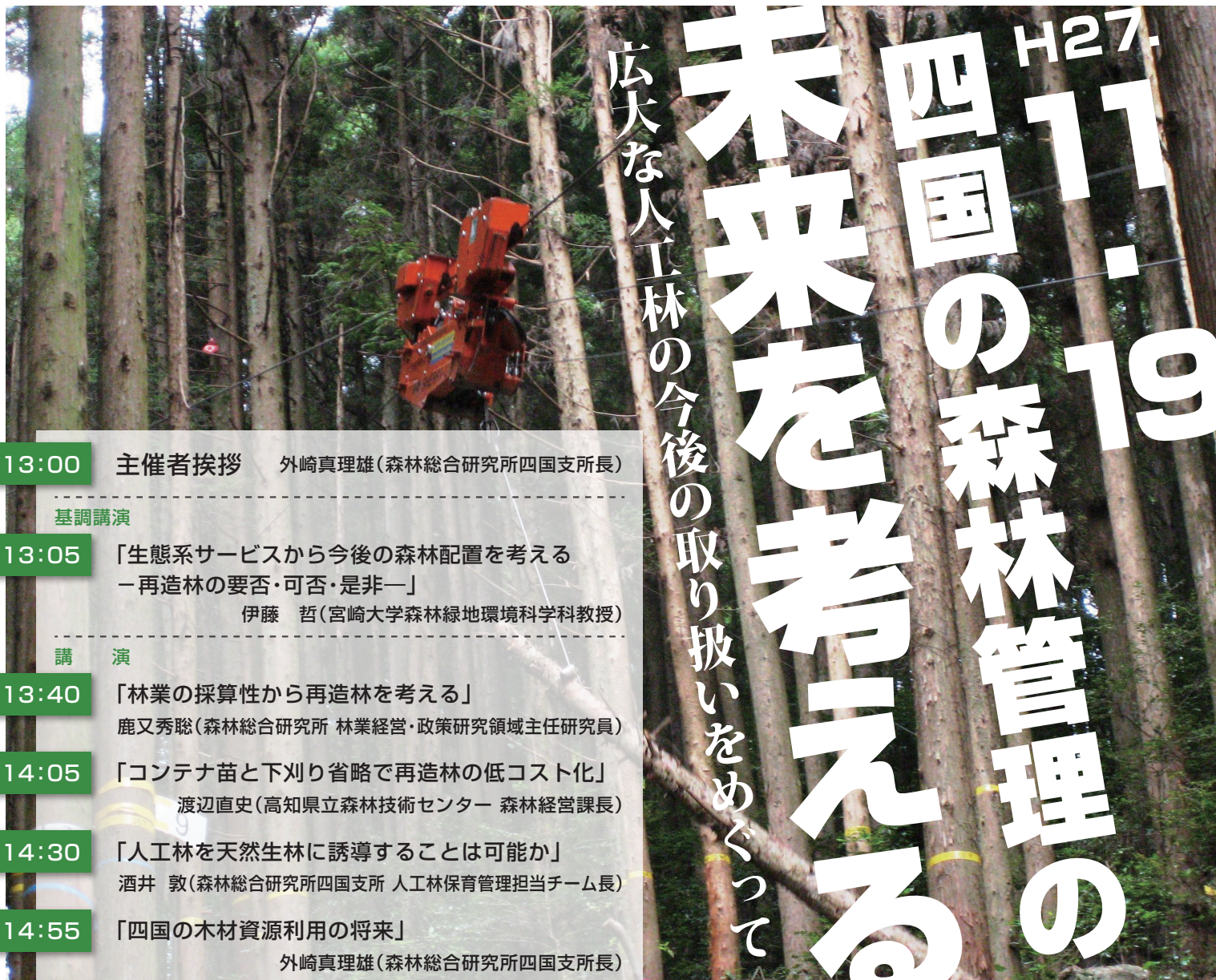




未来を考える 四国の森林管理の 広大な人工林の今後の取り扱いをめぐって

13:00 主催者挨拶 外崎真理雄(森林総合研究所四国支所長)

基調講演

13:05 「生態系サービスから今後の森林配置を考える
ー再造林の要否・可否・是非ー」
伊藤 哲(宮崎大学森林緑地環境科学科教授)

講演

13:40 「林業の採算性から再造林を考える」
鹿又秀聡(森林総合研究所 林業経営・政策研究領域主任研究員)

14:05 「コンテナ苗と下刈り省略で再造林の低コスト化」
渡辺直史(高知県立森林技術センター 森林経営課長)

14:30 「人工林を天然生林に誘導することは可能か」
酒井 敦(森林総合研究所四国支所 人工林保育管理担当チーム長)

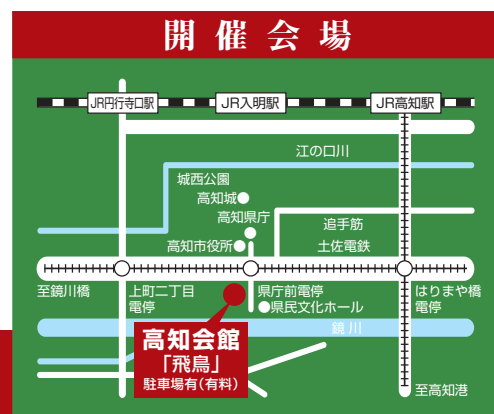
14:55 「四国の木材資源利用の将来」
外崎真理雄(森林総合研究所四国支所長)

15:20 休憩

パネルディスカッション

15:30 コーディネータ: 田中 浩(森林総合研究所 研究担当理事)
パネリスト: 木村 穰(四国森林管理局 業務管理官)
千葉幸弘(森林総合研究所 林業生産技術研究担当コーディネータ)
上記5名の講演者

16:50 閉会挨拶
杉田久志(森林総合研究所四国支所 産学官連携推進調整監)



開催会場: 高知会館「飛鳥」 駐車場有(有料)
高知市本町5-6-42 TEL:088-823-7123

開催
日時

平成27年

11月19日(木)

入場無料

お問い合わせ

13:00~16:50 *受付開始 12:30 ◇定員100名 先着順

国立研究開発法人



森林総合研究所

四国支所
連絡調整室

〒780-8077 高知市朝倉西町 2-915 URL <http://www.ffpri.affrc.go.jp/skk/> E-Mail koho-ffpri-skk@gp.affrc.go.jp

TEL: 088-844-1121(代)

*受付時間 平日9:00-17:00

FAX: 088-844-1130



四国の森林管理の未来を考える

広大な人工林の今後の取り扱いをめぐって



基調講演

「生態系サービスから今後の森林配置を考える — 再造林の要否・可否・是非 —」

伊藤 哲（宮崎大学森林緑地環境科学科教授）

戦後の拡大造林によって我が国の人工林資源を充実してきたが、一方で単純同齢林の大規模造成による弊害も指摘されて久しい。多くの人工林が伐期を迎えつつある今、これらをどう伐採し、どう更新するのかは、今後の林業の存続と森林の健全性の鍵を握る喫緊の課題である。本講演では、生態系サービスのバランスという視点から森林の適正配置の考え方を紹介し、伐期に達した人工林の取り扱い、とくに再造林の要否・可否・是非について考える。

講演

「林業の採算性から再造林を考える」

鹿又秀聡
（森林総合研究所 林業経営
政策研究領域 主任研究員）

人工林の成熟とともに木材生産は、これまで以上に皆伐にシフトすると考えられる。森林資源の持続的利用を考えれば、皆伐後に再造林を行うことが不可欠である。しかしながら伐採収支やその後の再造林費用を考えた場合、採算性の面から再造林ができないケースもある。
本講演では、森林 GIS を活用した皆伐収支や再造林費用を推定する手法を紹介するとともに、推定結果から導かれる再造林を実施するための条件について整理をし報告する。

「四国の木材資源利用の将来」

外崎真理雄（森林総合研究所四国支所 支所長）

四国の林業供給力が向上し安定供給が可能となり、大型製材工場などの需要が増え供給量も増加し始めている。丸太価格は依然として低水準であり、需要拡大による価格上昇が必要である。域内の建築・土木等の木材需要拡大も必要であるが、四国の森林資源の生産ポテンシャルは域内需要を遙かに上回っている。林業労働者の増加等により供給力を増やし、高付加価値製品の加工工場を誘致し、海運等により域外販売の拡大が求められる。

THINK
MIRAI

「人工林を天然生林に誘導することは可能か」

酒井 敦
（森林総合研究所四国支所
人工林保育管理担当チーム長）

四国ではしばしば尾根から谷まで人工林に覆われている。一般に尾根での木の成長は遅く、急傾斜地では広葉樹に置き換わっており、現状では必ずしも効率的な木材生産体制になっているとはいえない。かといって人工林に不適な場所を天然生林に戻すといっても、そう簡単にいくだろうか？
本講演では人工林における樹木の更新に関する研究や過去の研究プロジェクトの成果などをふまえて、人工林を天然生林に誘導する実現可能性について考える。

「コンテナ苗と下刈り省略で再造林の低コスト化」

渡辺直史（高知県立森林技術センター 森林経営課長）

高知県では、大型製材や木質バイオマス発電所の稼働等により木材需要が高まっている。原木の安定供給のためには増産が必要であるが、皆伐による増産には更新という問題が残る。更新を阻害する要因として、“多大な更新費用”、“ニホンジカによる食害”ということがあり、この問題を解決するために、いくつかのプロジェクト研究が行われている。本講演ではプロジェクト研究のうち更新費用低減に関する高知県の成果を報告する。

開催趣旨

四国地域では、人工林率が高く、急峻な山岳地帯・多雨地帯でもあることから、林業基盤未整備、育林・伐出コスト高、林地や道の崩壊リスクなど、不利な条件のものが多くみられ、すべての人工林を経済林として維持するべきか否かが問われています。成長量やコストなど採算性を考慮して効率的・持続的な木材生産が可能な人工林を選定する手法の確立が急務です。そのような人工林では、不利な条件下でも林地を保全しながら、コストを抑えて伐出や再造林を進め、収益を確保する高度な技術が要求されます。さらに、木材の利用を拡大し、効率的に使うことは収益の改善につながります。一方、木材生産よりも公益的機能へとシフトするのが得策と判定された人工林は、将来的には天然林へと復元することが望まれますが、その誘導技術は確立していません。この講演会では、四国と類似した条件をもち、皆伐・再造林の先進地域である九州での先行研究を紹介し、それを受けて四国地域における方向性を参加者の方々と一緒に論議を深めたいと思います。